

## 日程第２．一 般 質 問

### ○議長（樋口英一君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１２人ですが、議事の都合により本日５人、３月２日５人、３日２人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き１人３０分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

なお、質問は通告の範囲内にとどめるようにご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

### ○議長（樋口英一君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

### ○１３番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川２１クラブの田原 実です。

事前に提出しました発言通告書に基づき一般質問をいたします。

#### １、地方創生と経済対策と市民生活、糸魚川市の対応について。

##### （１）地方創生で「まちに元気を出す」ための糸魚川市独自の取り組みについて。

市長・職員がこれまでとは違う発想と意識改革で地域の個性を活かし、創意工夫をすることが求められています。糸魚川市の対応を伺います。

##### （２）地方創生事業と糸魚川市への経済効果、糸魚川市全体への波及効果について。

特に北陸新幹線工事、バイパス工事、合併特例債事業が終了したあとの落ち込みへの対応について、仕事不足と市内の企業・商店の倒産防止について、糸魚川市の対応を伺います。

##### （３）若者と女性の雇用促進、都会で暮らす若者が糸魚川へ戻って働く職業の創出、女性が働きやすい職場環境と子育て環境の整備について、糸魚川市の対応を伺います。

##### （４）農業、漁業、林業、工業、商業、サービス業などにおいて、個人的な生業（なりわい）を糧とし、家族を養い、糸魚川で生活する市民へのサポートについて糸魚川市の対応を伺います。

##### （５）市内企業への業務発注の現状と課題について、市外企業やインターネットでの購買率について伺います。

#### ２、谷村美術館など糸魚川市固有の優れた文化資源の活用について。

##### （１）谷村美術館、糸魚川フォッサマグナミュージアム、歴史民俗資料館・相馬御風記念館を連携させた市民利用、学習活用、観光活用について伺います。

##### （２）元三重県知事で早稲田大学大学院教授の北川正恭先生が、２年前の５月に糸魚川で講演をされたおりに、谷村美術館は糸魚川のお宝ともいえるものであるが、地域資源として活かさ

+

れていない旨のお話があったと思います。その後の行政対応はいかがであったか伺います。

(3) 谷村美術館の入館者数、入館料、運営の状況と課題について伺います。

(4) 市内小学校・中学校・高校における谷村美術館の学習活用について伺います。

(5) 大学等で美術、建築を学ぶ研究者や学生向けの建築ツアーへの対応、資料公開や情報発信について伺います。

(6) 谷村美術館・玉翠園や翡翠園を活かしたカフェ、糸魚川らしさを感じるおもてなしについて伺います。

(7) 谷村美術館・玉翠園や翡翠園を活かしたイベントの開催と行政のサポート体制について伺います。

(8) 谷村美術館や翡翠園を活かしたまちめぐり観光コースについて伺います。

(9) 谷村美術館や翡翠園を活かした広域観光コースについて伺います。

(10) 谷村美術館周辺地域整備、駐車場整備について伺います。

### 3、新幹線開業への対応（３） 観光プロモーションと糸魚川ブランドの活用。

(1) 糸魚川市の観光プロモーションの現状と課題について伺います。

(2) 糸魚川市を目的地とする旅行商品の企画、決定、売り込みなど、着地型観光への対応を伺います。

(3) インターネットでの情報発信、きめ細やかなインフォメーションと双方向性コミュニケーションの仕組みづくりについて伺います。

(4) 合併から今日までの交流観光課観光プロモーション人件費、外注費、観光協会等外部団体への委託について伺います。

(5) ヒスイ、食材、食品、食事、米、酒、スイーツ、温泉、国指定の祭りなど糸魚川ブランドの活用について伺います。

以上、１回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、当市の実情に見合う仕事の創出や、まちづくりに直接効果がある事業を計画するとともに、計画段階から市民や関係団体との協議を深め、共通認識を持った取り組みとなるよう努めてまいります。

２点目につきましては、商工会議所、商工会と連携を密にし、国の補正予算に対応して消費喚起の緊急経済対策を講じてまいりたいと考えております。

３点目につきましては、引き続き、求人説明会の中できめ細かな相談体制とともに、現在、実施いたしております子育て支援に加えまして、ニーズに沿った新たな事業も検討してまいりたいと考えております。

４点につきましては、農林水産業においては、新規就農による新たな担い手等の支援をはじめ、

地域振興局や関係団体と一体となって新たな分野へのチャレンジを支援してまいります。

商工業における個人の起業、創業時には、商工団体と連携をした各種の創業支援制度等の情報提供や活用を促進してまいりたいと考えております。

5 点目につきましては、業務発注等につきましては、市内に本店等を有する事業者への発注を基本といたしております。また、インターネットでの購買率の実態につきましては把握しておりませんが、消費動向の多様化が進んでおり、今後、高まる可能性が大きいと考えております。

2 番目の 1 点目につきましては、各施設ともコンセプトがあり、それぞれの設置目的に応じて活用いたしております。

2 点目につきましては、市の重要な文化観光施設と認識をいたしております。平成 23 年の再オープンから運営支援をいたしております。

3 点目につきましては、今年度の入館者数は 1 月末時点におきまして、前年対比 14 % の増、入館料は同じく前年対比で 13 % の増となっております。課題といたしましては、施設の老朽化とスタッフの確保であります。

4 点目と 5 点目につきましては、小中学生を対象に冬期間の無料対応や建築系大学への紹介など、所有者の意向も確認の上、可能な範囲で対応いたしております。

6 点目と 7 点目につきましては、そこでしか味わえない景観を生かし、施設に合わせたおもてなしやイベントを開催し、誘客につなげる取り組みを進めており、企画や実施に際して人的支援を行っております。

8 点目と 9 点目につきましては、市内観光の目玉といたしましてツアーコースに取り入れておきまして、旅行会社へも積極的に売り込みを行っております。

また、新幹線開業後に始めるまちなかレンタサイクルでもコースに入れ、誘導していきたいと考えております。

10 点目につきましては、今後の入館者数の状況により検討してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、近隣県や首都圏を中心として新幹線開業に向けて実施してまいりましたが、糸魚川の知名度がまだまだ低いことから、今後、さらなる P R に努めてまいります。

2 点目につきましては、糸魚川市の観光地を組み込んだツアーを企画し、商談会や旅行会社に営業を行っております。

3 点目につきましては、ホームページ、ブログ、フェイスブック等で情報発信に努めております。さらに、光ステーションの W i - F i 環境による情報発信も予定いたしております。

4 点目につきましては、取り組みが多岐にわたっており明確な数字はお答えできませんが、新幹線開業に向けて積極的に取り組んでまいりました。

5 点目につきましては、新幹線開業に合わせ、食や祭りなどの糸魚川ブランドを誘客に活用してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○ 13 番（田原 実君）

ありがとうございました。

じゃあ 2 回目の質問は、順番を変えまして質問の 3、新幹線開業への対応、観光プロモーションと糸魚川ブランドの活用の再質問ということでお願いします。

テレビ等で見えておりますと、北陸新幹線開業に向けての各地方の取り組みということで、けさですか、NHKでもやっていたか。ただ、出てくるところは金沢、金沢ということで、糸魚川の取り組みはどうなっているかということのをこの機会に伺いたいということで、この質問をさせていただきたいと思っております。

私は昨年秋に熱海市の観光行政について、特に、観光プロモーションの進め方について市外調査に伺い、参考となることがありましたので、それと比較しながら、将来の交流人口 300 万人を目指す糸魚川の取り組みを伺いたいと思います。

熱海は江戸時代から親しまれている熱海温泉のまちと、昭和 30 年の新婚旅行、東海道新幹線、冬季オリンピック、そして昭和 40 年代から 50 年代は、団体旅行で大変にぎわいました。しかし、最近の課題は少子高齢化で 65 歳以上の人口が 42.5%、学校施設の統廃合も進むほど少子化が顕著だということでもあります。

3 次産業が 8 割、これは観光業で産業の中心となっており、宿泊業を中心とした観光関連業、現在、ホテル、旅館が 130 軒、寮、保養所が 170 軒、合計 300 軒の宿泊施設が熱海市にあると。産業構造としては、宿泊業で 308 億円の生産額、400 億円の経済波及と雇用があるということでもあります。

しかし、熱海は春と秋は客が底を打つと、そこへの対策が大切と。そして雇用への影響があるということから入れ込みの安定、それから平準化がないと雇用も安定しないということで、2 年前からプロモーションを中心に観光施策を進めてきたということでもあります。熱海だからこそのことがあるという考えがありますが、しかし、そのたくさんのお客さんが来た熱海こそ大変だったわけですね。そういったところでも、ようやく 2 年前からプロモーションというものも見直しをしてきたということでもあります。

熱海が工夫をまずしたところは何かと言いますと、4 月から事業を始めたのでは、もうその年の観光のプロモーションが打てないと。もう 1 年前、旅行商品を企画して、そして半年前には首都圏等の旅行会社に売り込みをかけていかないと間に合わない、そういった取り組みを施策としてやっている。ただ、それには行政の仕組みとして単年度の宿命があるわけですが、債務負担というものを議会にお願いして、3 年間のスパンの中でプロモーションを打っている。そういったことの取り組みをやっているわけですが、糸魚川市もこれから本格的に観光入り込み客をふやすとなると、そういうことも考えていかなければならないのではないかなと思うわけですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○ 交流観光課長（藤田年明君）

おはようございます。

議員の政務報告書のほうを、少し拝見させてもらっております。熱海市におきましては、シティプロモーションの一環として、観光プロモーションも大きな位置づけで進めてるということで、その中で3年間の債務負担行為のいわゆる業務委託により、途切れのないプロモーションを進めているというふうに受けとめております。

確かに長いスパンで、ある一定の形で進めるという中では、業者委託という形を考えると債務負担行為という手法というのは、考えられる手法だと思っておりますし、今後の参考にはさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

金沢の観光プロモーションということも、特別委員会で勉強してきたことがあります、やはり前倒し、前倒しなんですよ、その成果が今日あらわれていると。糸魚川市もやってきたわけですが、やはりそこら辺の出おくれがあったのじゃないかなということを、私、感じるんですけど、その辺は、いかが感じていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当市の観光プロモーションになりますけれども、基本的には、ジオパーク戦略プロジェクトに基づいて誘客活動を進めてる形になります。その中でジオパーク戦略プロジェクトについては、数年間のスパンで計画を立てております。ただ、今までの交流人口の拡大という観点でいくと、どちらかという糸魚川市の知名度を上げるという、そういうところが主題という形での誘客活動になっていたのかなというふうに感じております。

そういう面では、新幹線開業後は、いかにして糸魚川市に来ていただくかという、そういうところを主眼にした誘客活動にシフトしていくことが重要と考えておりますので、やはり誘客活動する場所とか季節、それからターゲットを明確にする中で、観光協会や観光事業者としっかり連携して、戦略的な誘客活動に努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そういう取り組みで、ぜひお願いしたいと思うんですね。

熱海のほうでは6カ月前のリードタイム、それから季節で売っていくということが大事だというアドバイスをいただいております。お客様にも、やはりわかりやすいということですね。そういった季節の素材、食であれ祭りであれさまざまなものと、それから季節感というものを出して、それを磨き上げて商品とする。そしてセールスシートというのをつくって、行政だけでなく、市内の

+

宿泊観光施設がエージェント回りをするときにも、そういったものを活用していただくということで、官民連携して観光のプロモーションに当たっているという取り組みを伺ってまいりました。糸魚川はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

エージェント回りをする際には、やはり市内の観光施設や食、そういったものを紹介できるような形でやっておりますけれども、ただ、私が見る中では、やはりしっかりとしたシート、そういうところまではまだいってないのかなという気はしまするので、やはりそういうシート化というのは、非常に大切なことかなと思っております。

また、いろんな旅行商品を開発する際には季節ごとのコメント、いわゆるツアーのタイトルですね、そういう中で、またどういうツアーになるかっていうのは、わかりやすいような設定をしないとあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

熱海の市内の観光協会は6地区あるということで、それぞれが取り組んでいる状況があって、ばらばら感がお客様に伝わり効率も悪いことから、その統一を進めようというのが、ここ数年の動きだそうです。

行政の広告宣伝費は年間で2,000万円ほど、情報発信は雑誌、インターネットなどを媒介としているが、ばらばらにターゲットは何だかわからないままに、1年間を費やすという状況があったのを変える必要があるということから業務発注の方式を変えた。単年度で進めてきたプロモーションを複数年で行うということから債務負担行為を議会で承認してもらい、3年間の業務契約を発注として企画コンペ、プロポーザルによる業者選択として8社が参加していると。電通、博報堂などからも企画提案をもらっている中で、旅行代理店の企画を採用しているということですが、今後の取り組み、糸魚川としてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当市としては、やはり観光協会を体制強化して、当市の観光のワンストップ窓口にもっていきたいというふうに思っております。そうすることによって、観光協会に全て任せるというわけじゃありません。当然、行政、観光協会、商工団体、それから観光事業者が連携して進める必要があると思っておりますけれども、当市の観光を売り出すためには、やはり窓口を1つにして、できれば観

光協会から旅行業もしっかり取得していただいて、しっかりとした着地型観光のツアーメニューが  
つくれるような、それからしっかりと売り込みができるような形にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

プロモーションというと、何かチラシをつくって旅行会社回りをしてくればプロモーションだ  
というような印象を受けるんですけども、やはりそこで終わってしまっていては何もならないと。実  
際にお客様にここへ来てもらって、そして満足していただいて、リピーターになっていただくこと  
が大切と。そのためには、食というものが重要だということを熱海でも言われました。

そして食事が泊まりでも立ち寄りでも大事なんだけど、それだけでなくお土産屋さん、まち  
めぐり、そういったものと全てが連携しなければいけないし、そのコーディネーターを行政がやる  
といったことで、熱海では取り組んでいるようです。そのために観光プロモーションのコンテンツ  
会議というものを開催して、情報として出す素材を吟味する会議を持つ。誰が見ても違和感のない  
テーマとストーリーを打ち出すということに取り組んでいらっしゃる。

やはりこの観光のためにはストーリーづくりというのが大切で、そのストーリーをつくるターゲ  
ットは誰かといえ、やはり女性なんだと。観光は宿泊、それからリピーターづくり、そして女性。  
女性がまたリピーター客になりやすいということで、やはりターゲットはそこに絞って相当な打ち  
合わせ、内容を検討する会議を行政が中心になってやっているということを伺っているわけですね。  
今の糸魚川市の取り組みはどうなのか、また、これからどうされるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

やはり熱海市には熱海市のやり方があると思ってますし、糸魚川市はやはり糸魚川市としての特  
性、そういうものを生かす中で、できれば糸魚川モデルというような形になるような取り組みに進  
めていかなきゃいけないと思っております。

ただ、そういう中で、どうしても行政と観光協会と、それから商工団体の連携というのは、不可  
欠というふうに思っておりますし、さらに新幹線が開業をして、これからお客様が多く見えられ  
ようになる中では、お客様からやはりお金を落としていただく観光事業者、その対応というのは、  
本当に重要になってくると思います。この前、知事が来ておっしゃってありましたけれども、本  
当に笑顔と挨拶、最低限はそういった形で、市内みんな取り組めるような形になっていただきた  
いというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○ 13 番（田原 実君）

そういう基本的なことは、言ってみれば当たり前だと思いますし、また、何のための観光かと言えば、もうかることがある、潤う、そういったことがないといけないということだと思います。

今ほど熱海とは違う、糸魚川ならではのモデルというお話をされました。それは糸魚川が世界のジオパークとして認められているということが、大きな力となっていくであろうと思いますが、ただ、言っているだけではそうはならない。糸魚川のように観光地として非常に認知度が低いようなところでは、ジオパークで売り出す努力と一緒に、ほかの観光地との違いというものもしっかり打ち出していけないと、またお客様に伝え切ることができていないと、お客様は来てくれないといったところが、一番の課題ではないかなというふうに私は思います。

行政と旅行業者が連携し、企画をつくること。また、行政から旅行業者にもうかることを企画していただくこと。ジオパークであるということだけではだめで、東京なら東京のお客様をターゲットとした場合、新幹線で糸魚川までやってくる 2 時間の時間をどう使うのかということも含めて、旅行商品の企画をつくっていかないと、糸魚川にはなかなかおいでいただけないのではないかなということを考えておりますが、最後、この点を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

おはようございます。

お答えいたします。

やはり議員のおっしゃるとおり新幹線が開業するというのは、大きいことだと思っております。新幹線自体が糸魚川に訪れるということになったというふうに思っております。そういった意味では、1 つには、やはり広域観光というものを、私どもは進めていかなければならないと思っているわけでございまして、そういった意味では今現在、北アルプス日本海広域観光連携会議ということで、近隣の自治体と連携しながら取り組んでいきたいというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○ 13 番（田原 実君）

では質問の 2、谷村美術館など、糸魚川市固有のすぐれた文化資源の活用についての 2 回目の質問に移ります。

1 回目、市長からご答弁をいろいろ伺いました。ここに挙げた施設は、いずれも多くの税金を投入し、資料を整え、人を配置して運営されている文化施設であります。今、市民の利用状況というのはどうなのでしょう。数字で出していただければありがたいんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

谷村美術館、翡翠園のみですけれども、いわゆる市民と市民以外という形での区別での集計はしておりませんので、明確な市民の利用というのは把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

市民、あるいは外からいらしたお客様の区別をせずに、どれぐらいの利用があるのかということをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

谷村美術館の平成25年度の入館者数は約8,800人、平成26年度については1月末の集計ですけれども約9,000人、翡翠園については、平成25年度は約5,900人、平成26年度は1月末までで約7,000人となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ふえてるということなんですけど、私、これはフォッサマグナミュージアムがリフォーム工事で閉館していた影響というものがあって、谷村美術館に回ったお客さんがいらっしまったのかなとも思いますけど、その辺はどうですか。

それともう1点、フォッサマグナミュージアムが工事中に谷村美術館を見てください、あるいは相馬御風の記念館のほうを見てくださいという案内を糸魚川市のほうはしたのかどうか、その点もお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

フォッサマグナミュージアム休館時の案内のときに、谷村美術館等のご紹介をして、そちらのほうへということでご案内を差し上げております。

それから、フォッサマグナミュージアム休館後の翡翠園、谷村美術館の状況ですけれども、いずれもふえております。特に11月の翡翠園については、対前年208%という数字となっております。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それぞれ成り立ちも違うし、歴史も違うという文化施設ではありますが、やはり糸魚川にお客様においでいただくためには、これが1つのまとまりとなって糸魚川のいいイメージ、糸魚川の文化のイメージというものを発信していただいて、活用していただくという取り組みをお願いしたいと思います。

では次は、市内小学校、中学校、高校における谷村美術館の学習活用について、担当課からも伺いたと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

平成26年度、ここまでですが、小学校、中学校の利用はありませんでした。高校につきましては、白嶺高校が写生で一度使っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

利用がなかった理由というものも、またこの後、伺いたいと思うんですけども、市内にこういう文化資源があって、しかも美術ということを学ぶ貴重な場となり得るのに、そこを利用しないというのは、やはり行政の知恵と努力が足りないのではないかなと考えざるを得ません。子供のころから美術館、そこですぐれた文化に触れる情操教育、それからふるさと教育というものを、子供たちにどうして提供していかないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

なぜ利用していないかということなんですけども、私ども谷村美術館のほうは、非常に美術的要素が高いということ。それから建築的にも非常にすばらしい要素だと、魅力がある施設だなという

ふうには捉えております。ですが一方で、作品が仏教美術が中心であること、それから美術という  
と彫刻だけではないわけですね、絵画であったり、デザインであったり、版画であったり。その  
点、この谷村美術館は、彫刻がほとんどであるということ。このような関係から、非常に活用しに  
くいのかなという判断をしております。

また、本物に触れるというのは子供の感性を揺さぶり、豊かな情操を築くのに大変いいというこ  
とは、議員おっしゃるとおりだと思います。しかし、本物というのはこの美術に限らず、偉大な自  
然であるとか、ジオパークで見られるようなふるさとの偉大な歴史文化であるとか、そういったも  
のが多々あるわけでした、この美術館だけに限られるものではないのではないかなというふうに判  
断しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

教育長、今みたいな答弁でいいですか。いいもん使ってないというのは、これだけじゃない、ほ  
かがあるからそこ使わないんだという、おかしいでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

おはようございます。

今の課長答弁、これは例えば今現在、小学校の美術の時間、図工の時間がどれだけあるかという  
こととも非常に大きく絡んできます。それから、すばらしい施設であるということもわかりますし、  
学校行事として外へ出て活動する、そういう時間も限られている。そういう中で、子供たちをどの  
ようにそこへ導くかというのは、非常に学校としても難しい時間構成が必要になるなということを  
私たちは考えております。

そういう中で、学校の判断の中で今年度はここは行かない、どちらかというと自然のほうに力を  
入れて、子供たちのふるさと愛育成をしていこうというような取り組みに現在なっている、そのよ  
うな私たちは受け取りをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

「のびゆく糸魚川」ということで、これが副読本ですね。この中に残したい建造物ということで、  
史跡、相馬御風宅と谷村美術館が紹介をされています。そして彫刻家の澤田政廣の紹介と、それか  
ら美術館の建物を設計した建築家の村野藤吾についても紹介をされています。子供たちは、これを  
手にして見ていると思うんですけども、ここで紹介するだけじゃなくて、歩いて10分、駅から

+

ですけどね、そこに本物を学べる場所があるというのに、その機会を奪ってるというのは、果たしていかなもんかなと思います。

それから、何か子供には仏教美術が理解できないんじゃないかというような前提でお話されているようですが、それはずかしい話ですよ。それが糸魚川の教育委員会のレベルでしょうかね。もうちょっと考え直したほうがいいと思いますよ。世界ジオパークのまちと言ってる割には、随分、文化のレベルが低い教育じゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

大変言葉足らずで申しわけありませんでした。

仏教美術で、仏教というふうに限っているわけではなく、彫刻の種類としてということで私は申し上げただけでありまして、宗教との関係とかは、全然、考えておりません。

また、場所によっては10分というふうにあるのですが、子供たちの広域な範囲を考えたときに、やはり交通手段等の確保が、これからの課題かなというふうに考えております。

また、青海のほうには小倉遊亀の絵画があります。そちらのほうには子供たちが伺って、美術の鑑賞をしております。

また、鑑賞というのは、そのものをうまいか下手かではなく、やはりそこにあるものを見て、どういうふうに感性が動いたか、そういったものを考えるものでありまして、今後、この谷村美術館についても活用を考えていきたいと思ひますし、また、建物の造りが非常に工夫されているということから、写生の対象として白嶺高校が、今回選んでいるわけですが、そのような翡翠園等も含めて、総合的な活用も今後考えていきたいなというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

白嶺高校の話が出たので、私からも1つ紹介しますが、白嶺高校は美術の授業で谷村美術館の彫刻作品のクロッキーに取り組んでいると。中の収蔵品で曼珠沙華という作品があるんですけども、これは手がたくさんついている複雑な形の像であるんですが、にもかかわらず、ふだん美術の授業に熱心でない男子学生がそこに群がってスケッチをしてると。生徒がふだん感じられない集中力を発揮していると。また、上半身があらわな彫刻もあるが、高校生はピュアに描写に取り組んでいると。15分ほどの時間で描かれるスケッチからは、生徒がその仏像に感動しているということが伝わってくるというんですね。生徒は学校から外へ出る解放感も味わっているかもしれないし、また、仏像を1つだけ選んでスケッチするというところで、美術館のガイドさんの仏像に対する解説もよく聞いていると。ふだんの美術の授業とは目の輝きが違うということ、私は白嶺高校の美術の先生から伺っております。こういうことで、やはり学校の教室で行われる美術の授業と、美術館の中に入って美術品をよく見る、そして自分で描いてみるということは、すばらしい感動を呼び起こして

いるのではないかという1つの例だと思うんですよ。

政務調査で伺いました、熱海の近隣の真鶴というところの中川一政という有名な洋画家の美術館がありまして、これも真鶴町立ではありますが、洋画家中川一政のためにつくられた美術館。ここは小学校でも中学校でも美術の時間を割り当てて、ふるさと教育も絡めて活用してるということです。こういう取り組みが糸魚川でできるはずなのに、それをやれないのは非常に残念だなというふうに思います。

先ほど課長からは、今後の取り組みとして考えていきたいということで、これからに期待したいわけですが、ジオパークに限らず糸魚川にあるいいものを、その価値を子供たちに伝えていくということが一番大切です。そして、その機会を奪っているということが一番問題だと思います。世界のジオパークということでありますので、そのレベルでいろんなところでの取り組みを進めていただきたいと思います。

さて、谷村美術館の運営の話をちょっとさせていただきます。

ガーデン・ミュージアム運営協議会がこの運営を、所有者の方から施設をお借りして進めているわけですが、全体の運営費の中に占める入館料の割合ですとか、そういったことの検討というのはされていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ことしの予算ベースで見ますと、全体の運営費については約2,700万円となっております。そのうち市の負担金が1,600万円、それから入館料が600万円ということですので、6分の1ぐらいかなと思っております。ただ、ことしについては少し翡翠園のトイレの整備で400万円ぐらい使ったりとか、トイレの水洗化等に費用がかかってますので、通常でいえば2,000万円ベースという形になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

入館者をふやすということと、地元の市民の方がそこを利用するということと、それから新幹線等を使って来るお客様の入館をふやすということと、非常にこれから取り組むこともあるんですけども、専門的な施設だという意味合いでは、大学等で美術、建築を学ぶ研究者、それから学生向けの建築ツアーというものの可能性がこれからあると思います。その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

建築系の大学とか専門学校のほうにはポスター等の案内、それから無料入場券みたいなものも送付したりしておりまして、東海大学とか早稲田大学とか武蔵野美術大学、京都工芸繊維大学などなど、割と多くの大学の生徒さんが見えられていると。ただ、やはり数人規模が多いんで、数的にはまだ少ない状況かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

幾つかお客様を、タイプを分けて考える必要もあるかと思うんですね。専門的なことで学びたい方たちは、どちらかと言えば少人数で来て、長い時間そこに滞在していろんなことを調べていきたいと思います。さて、そういった資料が整えられているのか、また作品や、それから作家について紹介しているビデオなどを、見るようなことができるようになっていくかといったところを検証したいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

資料的には、それなりに整っているとは思いますが、ただ、それをすぐに貸し出ししたり、見れる状態になっているかという、まだ整備が不十分であると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そこにこそ力を入れていただきまして、糸魚川のお宝を生かしていただきたいと思います。これについては、また後日、取り上げてみたいと思います。

では、質問の1番目の地方創生と経済対策と市民生活、糸魚川市の対応についての2回目の質問に移ります。

私は地方創生の始まりというものが、地方自治をリードする市長、職員の意識改革から、今回の地方創生の取り組み、これを前例主義をとる行政がどのように変わっていくのかということが、国から試されているのではないかと、こう思うんですけどもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

おはようございます。

地方創生の今回のやはり発端といいますのは、2008年からの日本の人口が減り始めたところに、1つ大きなきっかけがあったというふうに思ってます。田原議員の言われる職員の意識改革のことは、とりもなおさずのことですけれども、今回の地方創生の一番の狙いというのは、行

政だけでなくやはり企業、あるいはまた市民、幅広い各界各層からも力をいわゆる結集をして、地方をつくっていかねばならないというところが、今回の地方創生の一番の狙いというふうに思っております。

職員の意識改革は、議員の言われるとおりのところも当然ありますので、いかに発想の転換をしていくかというところは知恵比べも含めて、我々行政に求められていることは間違いありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

新幹線工事など大型公共工事が終了した後は、仕事がなくなり景気が冷え込むということは、前から予想されていたことですね。そういったことに対して、具体的な策を講じなければいけないといったときに、行政は今ほどおっしゃった糸魚川の民間、市民の皆さんとの意見交換等々を行って策を立ててきたのかなということを、この機会に伺いたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

確かに新幹線のことにしましても、あるいはまた合併から10年という部分につきましても、これはおおむね先の見えたといいますか、工事が完了するという時点は、ある程度、もう想定をできて進められてきたものであります。

よって、それを目標とするならば、その目標に向かって、これまでは邁進をしてきたというところでありますし、また、10年がじゃあ終えた後のそういった例えば公共事業との関係はどうなるかということについては、我々行政側とすれば、一定の大規模の公共施設が終わった後は、議会にも申し上げてきておりますように、やはりたくさん持っている公共施設等の長寿命化、老朽インフラの整備のほうへシフトしていくという方向性も出してきておるところでありまして、具体的には、そういったものは行政の計画とすれば、平成27年度にマネジメント計画とっております、公共施設等総合管理計画の中で位置づけをしていくということになりますけれども、そういったことで、行政の進む方向は、これまでも一定の方針を立てて進んできたものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

国、県の新年度予算も発表されました。中小企業、小規模事業者への支援ということも盛り込まれているわけですが、行政からやはり民間、市民に対しても、そういったことの情報を出していただくだけではなくて、足を運んでいただいたり、やはり糸魚川での生活というものが市民が続けられるように、きめ細やかなサポートというものをしていただきたいというのが、私の今回の質問の趣旨であります。そういった点はどうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、お話のように、きめ細かく出向いていってお話をするということの質問だろうと思っております。今までも1次産業で言いますと、チーム系魚川農林水産業協働プロジェクトでありましたり、また、あるいは商工会議所、観光協会、行政との連携をとる中で、私どものほうとしてはいろんな情報を、また、お話の場を設けてきたつもりでございます。

今、地方創生という言葉が出てきてまして、そういう中においては今まで以上に、やはりそういう連携を密にして、行政ばかりでなくて市民も一体となって、このチャンスをどのように利用していくかというふうな場を、どんどんつくっていくべきでないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

場をどんどんつくるといことなんですけど、私のうがった見方かもしれませんが、やはり行政が開催する会議というのは、そこに出席される顔ぶれも比較的同じであったり、団体の代表者だったりということで、もう同じような話のやりとりですよ。

ところが、やはり市中にはそういう会議に出る時間すらない。本当に自分の会社、商店を守って頑張っている。また、その経営のために悩み、苦しんでいるという市民もいるんですね。そういった方の気持ちに沿って、この地方創生というものをどう進めるかということを伺いたいということなんですね。もう一度、お願いできますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

商工農林水産課として、1次産業から3次産業を担当させてもらっているわけでありまして、共通して言えることは、やはりどんどんと出向いていくということが必要なんじゃないかと思っております。確かに言われますように、会議を開いても参集いただく方が固定していたりと。また、あるいは参集を多くしたいなと思って企画しても、なかなかおいでいただけないというふうな実情をもう少し分析する中で、私どもも人数には限りはございますけれど、もっと出ていくということと、あるいは具体的な事業ができなくても、発想の段階から一緒になってものを考えていくというふうな体制は、当課の中でもこれからどんどん進めていく必要があるなと、そういうところは大事にしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

わかりました。よろしくお願いいたします。

大きな企業を誘致してくるとか、黒部のように大きな企業の本社機構がそこへ移ってきて、がらりと変わる可能性を出しているというところとは違って、糸魚川というのは小さな個の集まりなんです。ですから、そういったところを大切にして、まちづくりをしていただかなければいけないと私は考えます。

そこで伺いたいことは、若者と女性の雇用促進、それから都会で暮らす若者が糸魚川へ戻って働く職場の創出、こういった部分がまだまだ足らないのではないかと。やはり糸魚川へ戻ってきて働きたいけどマッチングしないというような場合が多いのではないかと思いますけども、その辺はどのように分析していますか。また、これからどのような手を打ってきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

まず、首都圏に向けましては企業説明会を近々、東京で行う予定にしておりますし、それに先立ちまして、首都圏での大学へも訪問いたしまして企業説明会の情報案内をし、より多く来ていただけるような、きめ細かな求人説明会の場も考えております。

それから、市内におきましても求人説明会の回数をふやすなど、きめ細かな対応を考えていきたいというふうに考えております。

それから、移住・定住につきましては、当課におきましては平成26年度、約10回だったと思いますけども、首都圏を含めまして移住相談をしまいいりました。約36人、40人近い方が糸魚川のブースにおいでいただいたわけでありますけども、そういう方々をしっかりと今後フォロー、サポートしていけるように、今、考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

フォロー、サポートという言葉が出ました。そうですね。そのためには、やはり情報を出し合う密度を上げて、それで合意に至るといようなところまでもってくる。双方向性のコミュニケーションというものが大事だと思いますが、インターネット等を活用してもっと密な連絡がとれるような、距離を意識しないでも連絡をとれるような仕組みも大事だと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、いろんな媒体を使う中で、しっかりとフォローするように、今、担当のほうで進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○ 13番（田原 実君）

最後になりますが、女性が働きやすい職場環境と子育て環境の整備、これがこれからの地方創生の根本となる、まちづくりの根本となるものだと思えます。もっとここに集中的に投資をして、また、効果を出していかないといけないと。行政の対応としても庁内の組織を横断するプロジェクトチームがあってもいいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

人口減少対策に今までも取り組んでまいりましたが、より一層、取り組んでいく必要があると思っております。

その中では、今ほどそれぞれ担当課長が申し上げましたように仕事づくりであったり、あるいは子育て環境であったりという部分がございます。それについては庁内連携を強化する中で、取り組みをしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○ 13番（田原 実君）

終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

○6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、中山間地域活性化戦略について。

(1) 戦略的農地集約とその活用について。

今後増加する維持管理が難しい農地について、免税などの条件で提供してもらう管理代行制度の創設はどうか。また、提供された農地（用水）で高付加価値作物の栽培や再生エネルギー実験、新しい観光資源としての活用する公社の創設はどうか。

(2) 戦略的山林集約とその活用について。

維持管理が難しい山林について、免税などの条件で提供してもらう管理代行制度の創設はどうか。また、提供された山林を計画的に間伐し、観光資源となる樹木の植林や山林を観光資源として活用する公社の創設はどうか。

(3) 中山間地域の不安解消策について。